

事業報告書兼地域福祉推進計画2年次報告書

〈総 括〉

長く続いたコロナ禍もようやく収束に向かい始めています。夏には第7波の影響で当町においても爆発的に感染者が増加した中、当会では感染対策を徹底し、福祉事業や介護保険サービス事業は中止することなく進めてまいりましたが、多機能型事業所ひと花については、利用者に感染者が出たため保健所とも相談し、2度にわたり事業を休止いたしました。

コロナ禍により生活困窮に陥った方への支援対策として令和2年3月から実施してきた特例貸付は、令和4年9月末で受付を終了しました。2年半の間に延べ98件、総額3238万円の貸付けが決定されています。

地域においては休止していた集い場を徐々に再開するところが出始め、当会は引き続きボランティアの不安に対して丁寧に相談に応じながら、集い場の継続や再開へ向けた支援をおこないました。

一方で、葬儀スタイルの変化に伴い、善意銀行の預託件数と寄付金額の減少が続いており、社協独自の地域福祉サービスを展開するための自主財源の確保が困難になっています。広報紙を活用して啓発に取り組んできましたが、以前のような実績を見込むことは難しい状況です。

1. 発効2年目である「第3次地域福祉推進計画」は、シニアカレッジでの地域共生社会の啓発や、介護人材の養成、地域での防災・減災意識の醸成など、計画に沿って事業を遂行しています。しかし、取り組みに課題がある項目もあり、計画の推進に向けて、その効果的な方法を更に検討する必要があります。
2. 4月から社協組織内に専門部署を設け、引き続き生活支援コーディネーター業務をおこなうとともに、「地域共生社会」の推進に向けた取り組みとして、シニアカレッジ公開講座や学校の福祉学習を通じた啓発活動をおこないました。
3. 職員間で担当業務を短期的に交代し、異なる目線での点検評価をおこないました。新たな気づきもいくつか見られ、事業の効率化を図ることができました。
4. 介護事業職員が必要とする専門的な技量（マネジメント力）の向上に向けて、外部講師による指導を3回受講し、個々の力を高めました。
5. 訪問介護事業所（ホームヘルプサービス）と、多機能型事業所ひと花の生活介護部

門において、職員を2名増員したうえで、営業日拡充に向けた試行期間を設けました。
令和5年4月からは本格実施しています。

※訪問介護事業所… 土曜日、祝日も営業日とする。

多機能型事業所ひと花（生活介護）… 祝日も営業日とする。

6. 4月から介護事業職員の給与のベースアップをおこなうとともに、国からの「介護職員処遇改善臨時特例交付金」を引き続き受給して、介護事業職員に処遇改善手当として支給しました。

○第3次地域福祉推進計画2年次の報告

活動目標1 違いを認め合う福祉教育をいろんな世代ですすめよう！

ボランティア推進活動校に訪問し、担当教諭からの相談を受けたり、当会から効果的なプログラムを提案するなどし、子ども達が体験を通して障がいを理解したり、地域に対して自分たちに出来ることを考え実行する機会を持ちました。

活動目標2 ひとりぼっちをつくらない地域にしよう！

コロナ禍の影響により休止していた地域の集い場の再開支援と、活動中の集い場ボランティアの不安解消を目的に、ボランティアの意見交換をおこなったり、活動現場に向き個別の相談に応じたりしました。

活動目標3 見守りあい、支えあう仕組みづくりをすすめよう！

生活支援コーディネーターが、集落協議体やブロック協議体に参加し、集落における見守りあいに対する意識向上と仕組みづくりを支援しています。

新たな助成金制度については今後の検討課題として残りました。

活動目標4 身近な困りごとをキャッチしてつなごう！

町との共催の「暮らしの安心相談」の相談体制について、町担当課と協議しながら住民が相談しやすい体制づくりに努めました。生活困窮に関する相談には、速やかに関係機関に繋ぎ、連携して支援対策を検討、実施しました。

活動目標5 誰もが活躍する場をつくろう！

障がい者基幹相談支援センターとひと花が連携し、引きこもりの方にアプローチし、外出のきっかけづくりをおこないました。

活動目標6 みんなでボランティアの輪をひろげよう！

有償ボランティア活動に関しては、集落において住民同士が互いに支えあう仕組みづくりを支援していますが、立ち上げ後の有償ボランティア活動に対する社協の関わりや

支援については引き続き検討します。

活動目標 7 先への不安を取り除く福祉活動を展開しよう！

今年度は、市川町社協と共催で「介護職員初任者研修」を実施しました。そのうち2名が当会介護事業への就労に繋がりました。

活動目標 8 地域で防災・減災に取り組もう！

危機的な状況下で重要な業務をどのように継続的に実施するかを示した「事業継続計画（BCP）」の策定に向けて、まずはアドバイザーを招いて社協の災害対応マニュアルとBCPの関係性を学んだうえで、今年度は災害時の参集基準や組織体制等を示した災害対応マニュアルの改定に取り組みました。

1. 法人組織運営

(1) 理事会・評議員会・監事監査

※○、□数字は議案番号を示す

開催日	会議の名称	協議内容	出席者
5月17日	決算監査	*令和3年度神河町社協の各事業ならびに会計監査	監事 2名 会長
5月24日	○第100回理事会	①令和3年度神河町社協事業報告並びに会計決算 ②評議員選任・解任委員会への評議員候補者の推薦 ③定時評議員会の招集ならびに提案議案の承認	理事 8名 監事 2名
	第9回評議員選任解任委員会	*退任に伴う評議員候補者4名の選任	委員 3名 会長
6月20日	□第55回(定時)評議員会	①令和3年度神河町社協事業報告ならびに会計決算	評議員 21名 会長、副会長 監事 1名
8月22日	○第101回理事会	④神河町社会福祉協議会就業規則の全面改正について	理事 7名 監事 2名
9月11日	社会福祉法人等指導監査	社会福祉法人 訪問介護 居宅介護 同行援護 (介護予防) 訪問入浴介護	監事 1名 会長
11月4日	中間監査	*令和4年度上半期の神河町社協の各事業ならびに会計監査	監事 2名 会長
11月16日	○第102回理事会	⑤令和4年度神河町社協会計第1次補正予算 ⑥次回評議員会の招集ならびに提案議案の承認	理事 8名 監事 2名
12月19日	□第56回評議員会	②令和4年度神河町社協会計第1次補正予算	評議員 22名 会長、副会長 監事 1名
R5 2月14日	○第103回理事会	⑦令和4年度神河町社協会計第2次補正予算 ⑧令和5年度神河町社協事業計画並びに会計予算 ⑨評議員選任・解任委員会への評議員候補者の推薦 ⑩次回評議員会の招集ならびに提案議案の承認	理事 7名 監事 2名
	第10回評議員選任解任委員会	*退任に伴う評議員候補者1名の選任	委員 3名 会長
3月10日	□第57回評議員会	③令和4年度神河町社協会計第2次補正予算 ④令和5年度神河町社協事業計画ならびに会計予算	評議員 23名 会長、副会長

（２） 住民や利用者等から指摘や苦情および業務中の事故について

- * 社協募金はあらかじめ金額を定め、強制ではないか ⇒ 金額はあくまでも目安です
- * お買い物送迎先が栗賀のスーパーだけなのはなぜか ⇒ 希望があれば寺前も可能です
- * ひと花利用者が転倒し後頭部を裂傷 ⇒ 机の角に保護クッション。町へ報告
- * 自宅で入浴介助中、シャワーからの熱湯で背中が発赤 ⇒ すぐに病院受診 町へ報告
- * 自宅訪問時に薬を準備してもらいが内容が違う ⇒ 一部職員の誤認識
- * 車両物損事故 1 件（後方の安全確認不十分） ⇒ 車両保険適用
- * その他車両事故 1 件（雪道での脱輪） ⇒ レッカー対応。けが、物損なし

（３） 職員数の増減

			令和 5 年 4 月	令和 4 年 4 月	年間の増減状況
常勤	正規	地域福祉職員	5 名	5 名	
		訪問介護員	3 名	4 名	異動-1、定年退職-1 昇格+1
		介護支援専門員	4 名	4 名	
		多機能型事業職員	2 名	1 名	異動+1
		相談支援専門員	1 名	1 名	
	嘱託	訪問介護員	2 名	1 名	新規+1、異動+1、昇格-1
		訪問入浴看護員	0 名	1 名	退職-1
		多機能型事業職員	3 名	3 名	新規+1、異動-1
	再雇用	訪問介護員	1 名	0 名	定年再雇用+1
非常勤	パート	訪問介護員	5 名	5 名	
		訪問入浴介護員	0 名	2 名	退職-2
		訪問入浴看護員	2 名	2 名	
		訪問入浴運転員	1 名	1 名	
		多機能型事業職員	3 名	1 名	新規+4、退職-2
		生活支援員	1 名	1 名	
合 計			33 名	32 名	

2. 自主財源の確保（募金・預託関係）

（１） 「善意の募金運動」

6 月に各世帯へ、ポケットティッシュと使途説明書をつけて募金協力を呼びかけ、集落内の取りまとめを区長さんに依頼しました。募金の目安額はこれまでどおり 300 円。

年 度	募金額	前年度比較
2 年度	1,046,235 円	－ 1.0%
3 年度	1,013,976 円	－ 3.1%
4 年度	1,022,733 円	＋ 0.9%

※町内公共施設に設置の「窓口募金箱」実績を含む。また令和 4 年度は、神河中学校募金（15,025 円）、中播磨健康福祉事務所（12,000 円）からの募金も含む。

(2) 社協会費

① 一般会費

6月に区長さんを通じ、一般会費について納入協力を求めました。

年 度	納入額	納入戸数	加入率
2 年度	3,358,000 円	3,358 戸	80.1%
3 年度	3,379,000 円	3,379 戸	80.1%
4 年度	3,341,000 円	3,341 戸	79.3%

② 特別会費

6月に99事業所に対して一口1,000円×口数の特別会費の納入協力を求めました。

年 度	納入額	内訳
2 年度	517,000 円	84 件
3 年度	543,000 円	84 件
4 年度	529,000 円	81 件

(3) 善意銀行預託

『社会のために少しでも役に立つことをしたい』という善意の気持ちを金銭でお預かりし、地域福祉の推進のために活用します。今年度からは、広報紙での預託者紹介欄を預託者のお気持ちが伝わるようなスタイルに変えるなど啓発への工夫に取り組んでいますが、寄付金額の減少はさらに進んでいる状況です。

年 度	預託総額	件数
2 年度	2,384,501 円	85 件
3 年度	2,038,946 円	66 件
4 年度	1,900,901 円	68 件

※社協事務所に設置の「窓口募金箱」実績を含む

3. 当事者を支援する活動

(1) 福祉給食サービス事業〔※共同募金配分事業（一部）〕

対象者の安否確認を目的として、概ね75歳以上の独居世帯等に1食200円で夕食のお弁当を週1回配食しています。調理ボランティアグループが少なくなってきた中、今年度も業者（にしはた、しあわせのひなた、神崎フード）にも調理委託をおこない、事業を実施しました。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

年度	利用者数	配食総数	調理ボランティア	配食ボランティア
2 年度	132 人	4,288 食	26 グループ	45 名
3 年度	112 人	4,059 食	21 グループ	45 名
4 年度	117 人	3,655 食	21 グループ	43 名

(2) まちの子育てひろば活動支援

申請のあった 6 団体に対し 30,000 円を上限に、総額 176,146 円の助成をおこないました。

②
ひとりぼっちを
つぐらない

(3) たまゆらの会（介護者の会）事務局

新型コロナウイルスの影響で毎月開催している活動を見合わせるなか、グループ内で検討し、意見交換会とレクリエーション等の活動を 7 回おこないました。

*会員数 14 名 *社協助成 50,000 円

②
ひとりぼっちを
つぐらない

(4) 老人憩いの日設定事業

日赤との共催事業として、9 月に開催を予定していた町内 75 歳以上のひとり暮らしの方を対象にした本事業は、コロナウィルス感染拡大防止のため今年も開催中止としました。

代わりにメッセージカードとマフラータオルのセットをひと花が詰め合わせ、民生委員さんの協力のもと、300 名余りの対象者へ配布しました。

②
ひとりぼっちを
つぐらない

(5) グリーフケアサロン

家族を失ったことで生じる喪失感や後悔の念を癒す(グリーフケア)ためのつどい場を、ボランティアの協力も得ながら 3 月 5 日に開催したところ、6 名の方の参加がありました。

当日はスタッフが一人ひとりに寄り添いながら丁寧に話を伺い、参加者からは「思い出話をたくさん聞いてもらえてうれしかった。」という感想が出ました。

②
ひとりぼっちを
つぐらない

(6) 福祉バザーの開催

11 月 6 日に、第 8 回かみかわ商工祭において福祉バザーを開催。住民さんから未使用の生活用品や食料品などの無償提供を受け、それを役場本庁舎前で安価で販売しました。ひと花の地域交流の場としても実施し、収益は利用者への活動工賃として還元する他、生活がひっ迫した方の緊急支援費用にも充てています。今年度は、神崎高校からも品物提供や当日の準備、販売の協力をいただきました。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

(7) 子育て世代支援事業 “おゆずりプラザ”

使用せずに眠っている子育て用品を社協が譲り受け、それを子育て中の方々へ無料あるいは安価で譲り渡す “おゆずりプラザ” を 3 月に実施しました。

約 50 名の町民に方々から預託いただき、延べ 45 組の子育て世代がプラザに来場しました。

③
見守りあい、
支えあう
しくみづくり

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

(8) 歳末たすけあい募金配分活動

神河町共同募金会を通じて町民の方々にご協力いただいた歳末募金をもとに、社協が次の活動を実施しました。配分金総額は 1,554,971 円でした。

① 在宅で介護が相当必要な方 (43 人) へ見舞品を配布

- ② 就学援助受給児童、生徒（107 人）に支援金を配布
- ③ 独り暮らし高齢者等（7 人）への年末大掃除の代行サービスを提供
- ④ 年末年始を独りで過ごされる独居高齢者（25 人）におせち弁当を配食
- ⑤ 1 歳を迎えたお子さん（33 人）に家計支援のための紙おむつが購入できる子育て支援券を配布
- ⑥ 子育て世帯を対象にした人形劇イベントへの助成（12 月 10 日）
- ⑦ 体が不自由な方への外出旅行「遠くへ行こうデー」の開催（12 月 6 日）

③
見守りあい、
支えあう
しくみづくり

4. 住民安心サービスの提供

（１）生活福祉資金の貸付事業（※県社協からの委託事業）

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯に対し、資金の貸付けをおこなうことで経済的自立と、社会参加を促します。

新型コロナウイルスの影響で生活困窮に陥った方を対象に令和 2 年 3 月から実施してきた緊急小口資金、総合支援資金の特例貸付は、今年 9 月末で借入申込期間が終了しました。

① 福祉資金 《生活課題の解決と自立を支援するための一時的費用》

→ 新規貸付や貸付償還中はなし

② 教育支援資金 《高校、大学等への入学のための費用や在学中の授業料》

→ 新規貸付 0 件。貸付状況は 1 件 500,000 円。滞納中。

③ 総合支援資金 《失業者が就労するまでの再建のための生活費用》

→ 新規貸付 0 件。現在の貸付状況は 5 件 2,940,000 円。そのすべてが滞納中。

④ 特例貸付【緊急小口資金】

《新型コロナウイルスの影響で休業し、緊急かつ一時的に生計維持が困難となった場合の生活費用》

→ 新規貸付 2 件、総計 58 件（貸付総額 9,280,000 円）。1 月より償還開始で償還免除は 29 件。それ以外の大半が滞納中。

⑤ 特例貸付【総合支援資金】

《緊急小口資金の貸付けを受けてもなお生活困窮が続く場合の生活費用》

→ 新規貸付 4 件、総計 40 件（貸付総額 23,100,000 円）。1 月より償還開始で償還免除は 20 件。それ以外の半数が滞納または据置中。

④
困りごとを
キャッチ

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

（２）日常生活自立支援事業《※県社協委託事業》

「通帳が見当たらず何度も再発行する」「お金の計算に疎くなった」など、認知症や障がいなどにより判断能力が十分でない方の通帳や印鑑を預かり、日常の金銭管理を支援しています。

利用者数は 11 名（新規利用 0 件、利用終了 2 件）。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

（３）「暮らしの安心相談」と、「法律相談」〔※共同募金配分事業〕

町と共催で就労や相続などについての有識者、行政相談委員、人権擁護委員が相談に応じる「暮らしの安心相談」を偶数月に、兵庫県弁護士会から派遣された弁護士による「法律相談」を奇数月に開催しています。

	暮らしの安心相談	法律相談
2 年度	5 件	24 件
3 年度	12 件	30 件
4 年度	10 件	34 件



(4) 日常生活用具貸与事業

骨折や病気などで身体機能が一時的に低下された方へ、介護用手動ベッドや車椅子を貸出しています。ベッドは貸出し後 4 年目から使用料として 5,000 円/年を負担していただいています。

	介護用ベッド	車いす
2 年度	10 件	20 件
3 年度	3 件	14 件
4 年度	1 件	9 件



(5) 外出困難者支援サービス事業〔※共同募金配分事業〕

道路運送法に定める「福祉有償運送事業」として、車椅子を要する方を対象に、スロープ付の福祉車両を用いて神崎総合病院等へ受診のための送迎を実施しています。

町から依頼を受けたコロナワクチン接種の送迎は、11 名が利用されています。

	利用者数	利用回数
2 年度	18 人	315 回
3 年度	24 人	284 回
4 年度	25 人	439 回



(6) 福祉車両の貸出し

歩行が困難な方の家族に、車いすのまま乗れる福祉車両（平成 25 年度姫路十字会寄贈）の無料貸出しを行っています。無記名式の自動車保険に加入し、運転者の運転免許証の確認をおこなうなど、安全な事業運営に努めています。人身・車両事故はありません。

	貸出回数
2 年度	75 回
3 年度	77 回
4 年度	71 回



(7) お買い物送迎サービス

車を持たない高齢者の買物支援を目的に毎月 1 回、自宅から町内の希望する商業施設まで、町内全域を対象に 3 ルートを設定し、乗り合いでのお買い物送迎を実施しています。今年度の新規利用登録者は 2 名のみに留まっており、今後、重くかさばる商品の購入など、必要な人に利用してもらえる様に、他の社協事業利用者も含め広く周知を進めていきます。

	延べ利用者数
2 年度	162 人
3 年度	126 人
4 年度	131 人



(8) 生活支援コーディネーター委託事業

6月4日に生活支援体制整備事業推進フォーラムを開催し、防災を入口にした地域づくりの事例として、福本みまもり隊の活動を報告しました。早速、緊急時に活用するカプセルや福祉防災マップについての問い合わせがあったり、2月には作畑区の「防災研修会」に参加し、福祉防災マップ作りを通して日頃からの見守り意識の醸成を呼びかけました。

協議体はコロナ禍の影響により引き続き話し合いが滞っている集落もありますが、定期的に開催している地域の協議体に計24回参加し、地域の「元気で長生き」と「お互いさまの助け合いの仕組みづくり」を支援しました。また、来年度発足する越知谷自治協議会の安心部会に生活支援コーディネーターがアドバイザーとして参加し、越知谷ブロックの支え合い活動を地域の人と一緒に推進することになりました。

住民への啓発活動として、シニアカレッジ教養講座の公開講座(8/18開催)において、高齢者の社会参加と介護予防、地域共生社会の実現をテーマにした講演をおこないました。

①
違いを認め合う
福祉教育

③
見守りあい、
支えあう
しくみづくり

⑧
地域で
防災・減災

(9) 見守り個配サービス

コープこうべと連携し、ひと花が高齢者の見守り活動を兼ねて個配サービスをおこなっています。コープ注文者数は大きな変化は見られませんが、ひと花利用者さんと注文者さんとの微笑ましい会話が見られます。1回200円の配達手数料が工賃収入。

③
見守りあい、
支えあう
しくみづくり

⑤
誰もが活躍する
場づくり

5. 福祉学習・福祉啓発の取り組み

(1) ボランティア推進活動校助成事業〔※共同募金配分事業〕

福祉学習、ボランティア活動に取り組まれる学校に対する助成事業で、今年度は町内すべての学校(5校)から申請があり、総額385,424円を助成しました。

〈助成額〉	・神崎高校	… 100,000 円	・神河中学校	… 9,723 円
	・長谷小学校	… 75,799 円	・寺前小学校	… 99,902 円
	・神崎小学校	… 100,000 円		

⑥
みんなで
ボランティア

(2) “ちょっといいこと運動”

今年度は冬休み中に町内の小中学生、高校生が行ったちょっといいこと、また他人からされてうれしかったことを記載し、提出してもらいました。それを広報紙や福祉給食サービスの掛け紙に掲載し、子どもたちの頑張りを町内の方に知ってもらいました。

⑥
みんなで
ボランティア

(3) 福祉教育として学校等へ出張講師

職員が学校へ出向き、福祉について説明しました。寺前小学校4年生は自分たちが地域にできることを考え、寺前区の民生委員さんと一緒に学校近辺のゴミ拾いをおこないました。

また、車いすやアイマスクの体験を行い、体験で感じたことを全校

①
違いを認め合う
福祉教育

児童に伝える活動もおこないました。

・神崎高等学校（1回） ・寺前小学校（7回） ・神崎小（4回）

（４） トライやるウィーク受入れ

6月6日～10日までの期間中、神河中学校の生徒2名を受け入れました。生徒は、地域で活躍するボランティア活動を見学や、介護や家事支援を体験しました。地域の方々や利用者と接する中で生徒からは「社協で学んだことを今後の学生生活に活かしたり、将来の仕事を考えたりするうえで参考にしたい」と感想が聞けました。

（５） タイムレター

青少年の健全育成を願うため、中学3年生に親への感謝の気持ちを手紙に書いてもらい、それを社協が大切に保管し、10年後に家族のもとへ発送します。中学校の協力も得られ、今年度もほぼ全員となる95人の生徒の大事な手紙を預かりました。

6. ボランティア活動の推進

（１） ボランティア登録状況

ボランティア活動される方は最初に社協ボランティアセンターへ活動登録されることで、ボランティア活動保険に自動加入となり、活動支援助成の申込み対象にもなります。高齢化やコロナ禍が影響し、グループ解散や個人活動の終了が続いています。

	4年度	3年度	2年度
グループボランティア	88団体	91団体	99団体
個人ボランティア	48名	52名	50名

（２） ボランティア活動支援助成

社協ボランティアセンターに登録し、年3回以上継続活動されるボランティア活動者に活動支援助成を行っており、33グループ（上限30,000円、新規立ち上げ50,000円）と、個人ボランティア（上限10,000円）1名へ総額861,268円を助成しました。

また、助成要件の変更を行い、ボランティア活動支援助成金説明会においてボランティアへ変更内容を説明し理解を求めました。

⑥
みんなで
ボランティア

（３） ミニデイや自身体操グループへの運営の協力、支援

活動を再開されているミニデイや自身体操に職員が計20回出向き、映画鑑賞やレクリエーションの提供やボランティアさんとの意見交換をおこないました。

②
ひとりぼっちを
つぐらない

（４） 善意の物品預託

住民の方々から預託いただいた物品は、広報紙で紹介しながら適切に払い出しています。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

内 容	預託件数	数量	払い出し先
ぞうきん	3	308 枚	町内の各学校、施設へ
衣類	4	多数	生活困窮者、新品は福祉バザーへ
介護用品	3	18 点	施設、要介護の方へ ※一部保留中
介護用紙おむつなど	12	多数	必要な方へ ※一部保留中
生活雑貨	7	多数	生活困窮者、福祉バザーへ
図書カードなど	1	4,500 円分	保留中
自転車、ソファ、パーソナルクーラーなど	3	5 点	社協（自転車） ※その他保留中
お手玉	1	23 個	きらきら館へ
手編み靴下	1	多数	福祉給食サービス利用者
お米	32	2,140 kg	生活困窮者、福祉施設、給食サービス等へ ※一部保留中

※保管期間を定めたうえで、どうしても払い出し先が見つからない場合は処分します。

使用済切手、ベルマークなどは延べ 97 件の預託をいただきました。使用済切手などは NPO 法人誕生日ありがとう運動本部へ、ベルマークは神河中学校へ届けました。

7. 災害対応

（１） 社協災害対応マニュアルの改定

ひょうごボランティアプラザがおこなう「災害救援マニュアル策定支援事業」を活用したアドバイザーの助言を受けながら、災害時の参集基準や初動、組織体制などを定めた社協災害対応マニュアルの改定に取り組みました。

⑧
地域で
防災・減災

8. 居宅介護サービスの提供

☆ 居宅介護サービス〔4 事業総計〕

	報酬総額	前年度比較
2 年度	73,135,547 円	＋ 9.4%
3 年度	68,894,736 円	－ 5.8%
4 年度	69,313,529 円	＋ 0.6%

※介護プランを作成したり介護サービスを提供すれば、国や一部利用者から報酬が得られる

① 訪問介護事業〔自宅にて食事やトイレの介助、掃除や調理などのサービスを提供〕

	事業報酬	前年度比較
2 年度	26,324,840 円	+18.7%
3 年度	25,526,809 円	－ 3.0%
4 年度	25,067,893 円	－ 1.8%

② 訪問入浴介護事業〔自宅へ浴槽を持ち込み、寝たきりの方の入浴サービスを提供〕

	事業報酬	前年度比較
2 年度	11,568,068 円	+ 3.8%
3 年度	8,293,967 円	－28.3%
4 年度	6,123,018 円	－26.2%

③ 居宅介護支援事業〔要介護者が必要とする介護サービスの利用計画を作成〕

	事業報酬	前年度比較
2 年度	26,002,340 円	+ 2.5%
3 年度	27,864,660 円	+ 7.2%
4 年度	26,823,640 円	－3.8%

④ 障害者自立支援 居宅介護・同行援護〔障がいのある方へのホームヘルプサービスを提供〕

	事業報酬	前年度比較
2 年度	9,240,299 円	+13.6%
3 年度	7,209,300 円	－21.9%
4 年度	11,298,978 円	+56.7%

(1) 研修への講師派遣

兵庫県福祉人材センター（神戸）などで県内の介護支援専門員を対象に兵庫県が開催する更新研修等において、本会職員（主任介護支援専門員）が計 13 回（述べ 24 日）、講師を務めました。

(2) 介護職員育成研修事業

市川町社協との共催事業として 6 月から 8 月の土日祝に 21 日間を要する介護職員初任者研修を開催したところ、10 代から 60 代まで 8 名の受講生が介護の知識や技術を学びました。講師は主に本会の職員が務め、修了後は就職の相談もおこないました。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

(3) 介護サービスに関する資格取得の推奨

主任介護支援専門員になるための研修（12 日間）を 1 名の介護支援専門員に、またサービス管理責任者になるための研修（5 日間）を 1 名の介護職員にそれぞれ受講させ、事業所の体制強化を図るとともに、質の高い事業所を目指しています。

⑦
先への
不安をなくす
福祉活動

9. 障がい者活動支援施設の運営

(1) 多機能型事業所ひと花

生活介護サービス・就労継続支援B型サービス〔利用者へ提供したサービスに対する報酬〕

	報酬総額	前年度比較
3年度	23,326,562 円	
4年度	27,746,381 円	+ 18.9%

- ・姫路十字会から物置購入にかかる助成（569,800 円）を受けました。
- ・中播磨地区赤十字奉仕団から希望する楽器（カリンバ）の贈答を受けました。
- ・町赤十字奉仕団から希望する調理器具セットの贈答を受けました。

(2) 指定特定相談支援事業所〔障がいのある方が利用するサービスの計画書を作成〕

	事業報酬	前年度比較
2年度	1,179,680 円	+ 8.2%
3年度	1,096,630 円	- 7.0%
4年度	1,137,930 円	+ 3.7%

(3) 神河町障がい者基幹相談支援センターの受託運営

障がい者やその家族の悩みを一緒になって考えたり、必要なサービスを紹介するなど、最初の相談窓口としての基幹相談支援センターを町から委託を受けてひと花建物内で運営しており、専門職員1名（兼務）が業務に就いています。



(4) 神河町障がい者等緊急時一時預かり事業の受託

親が突然、事故や病気となり、障がい者（児）が「短期入所」サービスを利用しようとしたができない場合に限り、ひと花の部屋を使って、社協介護職員の付添いのもと、緊急で一晩お預かりするサービスを実施しており、登録者は7名で増減なし。

